

浅川力三 県政だより



誠意・熱意・創意・勇気を持って「熱き心で行動する男」

ホームページアドレス <http://www.asakawa-rikizo.net>

強きリーダーシップのもとに飛躍を期す！



県議会議員 浅川 力三

明けましておめでとうございます。

皆様には、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、尖閣諸島問題、口蹄疫の発生、記録的な猛暑などさまざまな出来事がありました。また、2人の日本人科学者のノーベル化学賞受賞や甲府鳥もつ煮のB1グランプリ獲得、ヴァンフォーレ甲府のJ1復帰など明るい話題が、私たちを勇気づけてくれました。私は、昨年2月議会、

11月議会と2度にわたり県議会

における生粋の知事与党である県民クラブを代表して質問を行い、農業、観光など今後の成長が期待できる分野を中心に県執行部と議論を交わしました。11月議会の概要を裏面に掲載しましたのでご一読いただき、御意見、御要望をお寄せいただければ幸いです。

さて、横内知事は、9月議会の冒頭で「これまで育ててきた発展の芽をさらに大きな成果へと結実させたい。」と語り、知事選への出馬を表明されました。知事は、1期4年間の任期において、経済・雇用対策など当面の県政課題に的確に対応するとともに、県立病院の独立行政法人化、米倉山太陽光発電所の整備など長年の懸案にも筋道を付けました。さらに、リニア中央新幹線、産業振興ビジョン、やまなしブランドなどさまざまな分野に本県発展の種をまいています。

「暮らしやすさ日本一」の山梨の実現に向け、私も全身全霊を傾け“熱き心で行動”いたします。



12月 知事室にて
県の支援を受けて須玉町の耕作放棄地に農業参入した農業生産法人ヴィンテージファームが、栽培したぶどうから醸造した赤ワインを知事に贈呈しました。



11月 知事室にて
県が進める新たな事業として、信州峠を挟んだ長野県とのニホンジカ200頭の共同捕獲第1号を須玉町増富地区の方たちが知事に陳情しました。



12月3日 議事堂前にて
11月議会の私の代表質問には、過去最高の138人の皆様に傍聴していただきました。
昨年12月23日の後援会総会にも、近隣の市町村長や県議会議員を始め300人を超える多くの皆様に御参加いただきました。温かい御支援に感謝申し上げます。

浅川力三プロフィール

昭和22年7月8日/
浅川力三 誕生
旧清里村で父勝平、母すずゑの五男として生まれる。父は清里村 村長、高根町 町長を歴任
昭和41年/須玉商業卒業
昭和45年/拓殖大学卒業
昭和49年/昭和薬科大学卒業

昭和59年/八ヶ岳青年会議所創立メンバー 副理事長
平成9年/清里小学校PTA会長
平成10年/高根町議会議員
平成13年/高根町議会副議長
ポール・ラッシュの会 会長
平成15年/山梨県議会議員
平成16年/清里観光振興会々長

平成17年/
「決算特別委員会」委員長
平成18年/「県出資法人特別調査委員会」委員長
山梨県雪合戦連盟会長
北杜肝友会 相談役
平成19年/
「農政商工観光委員会」委員長

山梨県信用保証協会 理事
企業会計決算特別委員長
山梨県農業信用基金協会 理事
平成20年/「総務常任委員会」委員長
北杜市観光協会 会長
平成21年/山梨県議会 副議長
北杜ライオンズクラブ 会長
オール山梨青年会議所シニア会長
財団法人やまなし観光推進機構 副会長

【提出案件】「山梨県一般会計補正予算」 など24案件

【一般会計補正予算案】

●総額 55億1,622万8千円

●主な事業

- 公共施設整備等事業基金積立金 11億円
防災新館等将来の公共施設整備等に備える基金の積み立て
- 子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進臨時特別基金事業費補助金 1億5,343万4千円
市町村の子宮頸がん等のワクチン接種に対する補助

●本会議 代表質問

私の代表質問を掲載しました。

〈雇用の確保対策について〉

【問】県の緊急雇用対策により4,400人を超える雇用を創出して、雇用を下支えする大きな成果をあげたが、未だに情勢は厳しい。今後、どのように雇用対策に取り組んでいくのか。

【答】介護、農林、観光など成長が見込まれる分野における人材育成や雇用機会の創出に重点的に取り組み、本年度を上回る規模の雇用を創出する。

〈高校生の就職支援について〉

【問】高校生が社会に巣立つときに就職先が決まらず、挫折してしまうのは、たいへんつらいことである。県は、高校生の就職支援にどのように取り組んでいくのか。

【答】県主催の合同就職面接会に1社でも多くの企業が参加するよう求人開拓に努め、高校生を実社会の入り口でつまづかせないよう全力で取り組んでいく。

〈農業の多様な担い手の確保について〉

【問】本県農業の多様な担い手として大規模な農業が期待できる企業の農業参入を推進する必要がある。県は、今後、どのような支援を行っているのか。

【答】これまで48社が県内農業に参入しており、確かな手応えを感じている。今後も、栽培技術、施設、農地など農業参入に関する企業ニーズに迅速に対応していく。

〈6次産業化による農業振興について〉

【問】生産者が農畜産物の加工から販売までを行う農業の6次産業化の取り組みが県内各地で芽生えている。このような取り組みを加速させるためには、県が農産加工品の開発に積極的に取り組む必要があると考えるが、いかがか。

【答】今般、山梨県農政アドバイザーにお願いした東京農業大学小泉名誉教授から幅広い助言をいただきながら、本県農産物を原料として、全国で販売できる新たな加工品を生み出し、農業の6次産業化を積極的に推進する。

〈多様な国からの

外国人観光客の誘致について〉

【問】本県の昨年1年間の外国人宿泊者の半数は、中国人だった。先般の尖閣諸島問題などを考えると、東南アジア地域からの観光客誘致も進めるべきであるが、いかがか。



【答】タイやシンガポールで開催される国際観光展への出展やタイの旅行雑誌関係者を招いてのPR事業など、積極的にプロモーション活動を展開して、観光客の誘致に努めていく。

〈国際交流と観光振興について〉

【問】県では米国アイオワ州などとの、市町村でも姉妹友好地域との国際交流を行っている。こうした機会に本県を訪れた外国人に本県の魅力をPRするなど、観光振興につながるような取り組みが必要と考えるが、いかがか。

【答】市町村等と連携して、さまざまな国際交流活動の機会をとらえてPRを行い、本県の魅力を発信して、国際観光の振興に結びつくよう積極的に取り組んでいく。

〈C型肝炎対策について〉

【問】C型肝炎対策として、早期発見・早期治療、心のケア及び重篤化した患者への支援が必要である。今後、どのように取り組んでいくのか。

【答】肝炎に関する正しい知識の普及に努めるとともに、肝炎患者等に対する相談支援や情報提供の充実、適切な肝炎医療など、肝炎対策の一層の推進に取り組んでいく。

〈リニア中央新幹線を活用した 県土づくりについて〉

【問】将来のリニア中央新幹線開業に備えて、県内のアクセス交通網や本県の産業経済の構築などを網羅した新たな山梨づくりの構想に着手すべきと考えるが、いかがか。

【答】リニア新駅の位置が概ね決定した段階で、リニア開業を最大限活用するための基本的な指針として「リニア活用基本構想」を策定する。

〈やまなしグリーン ニューディール計画の推進について〉

【問】計画で掲げた「クリーンエネルギー先進県やまなし」を実現させるためには、自然に恵まれた本県の特徴を最大限に活かした取り組みを積極的に進める必要があるが、いかがか。

【答】太陽光、小水力等12のクリーンエネルギーの資源量の調査や、クリーンエネルギーの普及のために必要な取り組みを明らかにし、計画の推進指針として今年度中にとりまとめる。

〈米倉山太陽光発電所について〉

【問】過日工式が行われた米倉山太陽光発電所とPR施設は、本県の地球温暖化対策の先進性を発信して、世界有数のクリーンエネルギーゾーンに整備することが意義あることと考えるが、いかがか。

【答】PR施設に燃料電池、太陽光発電、小水力発電等の機器を展示するとともに、CO2ゼロを目指した施設運営を行い、米倉山全体をクリーンエネルギーへの取り組みのPR拠点として整備する。

〈少人数学級編制の拡充について〉

【問】知事は、今議会冒頭で小学校3年生に少人数学級編制を導入すると表明された。導入を決定された考え、そして、今後の方針について伺う。

【答】小学校で、学習面での遅れや勉強嫌いの傾向が目立ち始める「9歳の壁」に対応するため、来年4月から小学校3年生に少人数学級編制を導入することとした。また、今後は、国の計画の進捗を見ながら、これを前倒して実施していく。

〈経済活性化・観光振興のための 峡北地域の幹線道路整備について〉

【問】経済の活性化や観光振興の面でたいへん重要な役割を担う国道141号線の整備について、どのように取り組んでいるのか。

【答】これまで清里念場原の登坂車線の整備や箕輪バイパスの整備などを行ってきた。また、長沢交差点付近の整備に向けて、現地測量と併せて交差点形状などを検討している。

●農政商工観光委員会／

私の質疑を掲載しました。

〈おもてなしのやまなし

観光振興条例について〉

【問】条例制定をめざす趣旨はなにか。

【答】観光が団体型から個人型、交流型へと変わりつつあり、県民と観光客のふれあう機会が多くなっている。本県を訪れた観光客に満足していただき、再度来ていただくためには、地域のおもてなしが非常に重要となってくる。県民の実践活動を促すために条例を制定することとした。

【問】「よそおい」「しつらい」「ふるまい」の3つのおもてなしで観光客を迎えるということだが「よそおい（外観）」では県主導で強制的に廃屋や不適切な看板を撤収を進めること「しつらい（交流）」では市町村との連携を密にすること、「ふるまい」では企業、団体などを対象とした接遇研修を開催することを提案する。全庁的な取り組みを早急に進めてほしい。

【答】委員から提案された項目を新しい条例及び実施計画に反映させ、必要な施策を検討していく。山梨の特徴を活かして、総合的なおもてなしの向上を図る条例づくりを鋭意進めていく。

〈小水力発電について〉

【問】環境負荷の少ない小水力発電は積極的に推進すべきである。

【答】山梨県温暖化対策実行計画においてCO2ゼロを目指すという高い目標を掲げている。小水力発電はCO2排出が最も少ない発電システムであり、企業局の蓄積したノウハウを活かして、積極的に進めていく。



11月定例
県議会議を
終えて

11月定例会では、代表質問において、経済・雇用対策、農業振興、観光振興などを取り上げて県の対応を質するとともに、農政商工観光委員会において、県が来年度中の制定を目指すと表明した「おもてなしのやまなし観光振興条例」について、具体的な取り組みを何点か提案しました。この条例は、本県の観光施策の方向性を示すものとして非常に重要であります。引き続き、県執行部と熱い議論を交わしていきたいと考えています。